

平成29年度入省予定
環境省一般職自然系 内定者の声



| はじめに

こんにちは。

初めに、この冊子を手にとっていただきありがとうございます！

これは平成 29 年度環境省一般職自然系内定者がまとめた「内定者の声」です。

さて、ここ数年で「環境」という言葉をよく耳にするようになりました。

世界各国が「環境」に高い関心を寄せ、様々な環境問題を解決しようと取り組んでいます。

「環境」と一言で言っても、多くの見方があります。その中でも生物多様性、自然再生、人と自然の共生、希少野生動植物の保護、外来生物対策・・・

このような自然環境保全に携わり、その現場で働いているのが、環境省の自然系職員いわゆるレンジャーです。

私達はそれぞれの思いを持ちながら、同じレンジャーという仕事を目指してきました。

そんな私達の思いや勉強法をこの一冊にまとめました。レンジャーを目指している方も、めざすかどうか迷っている方も 1 度この冊子を読んでみてください。きっとあなたの手助けになるはずです。

最後に・・・

とても大切なことはレンジャーになりたいという気持ちを強く持つことです。

私達もこの気持ちは皆が持っていました。そんな私達が作った冊子が少しでも皆さんの力になれば嬉しいです。

いつの日か皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています！

| 目次

はじめに・目次	p.1
国家一般職試験の流れ	p.2
官庁訪問とは	p.3
内定への道（お世話になった資料・参考書一覧 編）	p.4
内定への道（内定者ボイス・アドバイス 編）	p.6
おわりに	p.18

国家一般職試験の流れ

注

下記の日程は平成 28 年度のものです。

平成 28 年度は官庁訪問の受付形式や時期について、前年からの変更が多くありました。最新の情報は人事院または環境省の HP をご覧ください。

日時	内容	ひと言メッセージ
平成 27 年 12月11日～	受験案内 ホームページに掲載	申し込み期間を確認してください。
平成 28 年 4月8日～4月20日	インターネットによる受付期間	期限に間に合うよう、余裕を持ってエントリーをしましょう！
6月12日	第1次試験日	私服で構いません。
7月6日	第1次試験合格者発表日	人事院 HP で確認、後日はがき(第1次試験合格通知書)が届きます。
7月7日～7月10日 (※開催地により異なる)	官庁合同業務説明会	官庁訪問する省庁を決める参考になります。積極的に参加しましょう。
7月19日～8月4日 (※第1次試験合格通知書で 指定された日時)	第2次試験日	人事院の面接です。控え室でとても丁寧な説明があり、会場までは誘導があります。緊張しますが、落ち着いて話せば大丈夫です。
8月22日 午前9時	最終合格者発表日	人事院 HP で確認、官庁訪問は各省庁のスケジュール等をよく考慮して臨みましょう。
8月22日 午前10時～ 23日 午前9時～	官庁訪問	クールビズで構いません。初日に訪問する場合はとても慌ただしいです。
10月3日	最終面接	最後の面接です。気を引き締めて、いつてらっしゃい。

官庁訪問とは



国家公務員として採用されるには2種類の試験を突破する必要があります。1つは人事院が実施する試験で、いわゆる第1次試験、第2次試験のことです。試験内容は基礎能力試験・専門試験・人物試験等があり、試験に最終合格すると採用候補者名簿に記載されます。つまり国家公務員になる資格が得られるのですが、この時点では「合格≠採用」であり道半ばです。採用に向けて突破すべきもう1つのステップが官庁訪問と呼ばれる、各府省庁等が個別に実施する試験です。ここでは、環境省が行う官庁訪問について説明したいと思います。

官庁訪問での面接の形式

平成28年度の官庁訪問は受付順でエントリーが行われ、前年度まで実施されていた電子メールによる訪問日の事前予約はありませんでした。面接は①若手自然系職員の方と行う面接(2対1)、②原課面接(1対1)、③人事担当の方との面接(2対1)の計3回行います。面接時間はいずれも15分程度ですが人によっては延びることもあるようです。

H28年自然系官庁訪問についてスケジュール

訪問受付日・開始時間

平成28年8月22日(月)・午前10時、23日(火)・午前9時

※いずれか一方の日に訪問をします。開始時間が異なるので注意が必要です。

対象者

平成26・27・28年度国家公務員採用一般職試験(大卒程度試験)の「土木」、「農業農村工学」、「農学」、「林学」区分最終合格者

受付場所、持ち物、服装

合同庁舎5号館入口にて入館受付をします。持ち物はその際に必要な写真付き身分証明書(学生証など)と、事前に記入した訪問者カードです(環境省採用HPから様式をダウンロード、3.5×4.5cm写真貼付)。服装はクールビズ可でした。

※上記の内容はH28年度の官庁訪問の情報です。最新の情報については各HP等を参照し、採用担当者の指示に従ってください。

○人事院HP 国家公務員試験採用情報 NAVI <http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>

○環境省_採用・キャリア形成支援情報 一般職自然系(大卒程度)HP

http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_ra3/index.html

| 内定への道

お世話になった資料・参考書 編

専門試験でよく使ったものBEST3 (林学)

1位 林学試験過去問 (数年分)

平成28年度内定者全員が使っていました。やはり問題の傾向把握には欠かせません。中には総合職の過去問も解いたという人もいました。入手方法は人事院から取り寄せたり、大学で配布されているものをもらうなどが主です。

2位 森林・林業白書 (林野庁)

林業の最新のトピックや課題が載っており、林学区分受験者は必読です。過去の白書に掲載されていても最新版では削除されてしまった、しかしながら過去問を解く上ではとても役立つ図表があるので、電子版などを遡って調べてみるのもよいかもしれません。

3位 森林・林業実務必携 (朝倉書店)

林学や林産に関する様々なことがまとめられています。白書ではカバーできない細かな分野にも対応しているので、過去問を解く際には併せて用いたいです。内容が詳細故に深追いしすぎないよう注意が必要なこと、比較的安価ではないことが気になる点です。

ほかにも…ニューフォレスターズガイド林業入門 (全国林業改良普及協会)、YouTube など

専門試験でよく使ったものBEST (農学)

※H27年度情報を引用

1位 スーパー過去問ゼミ 農学・農業

一般職の過去問が多く載っているのでおすすめです。これを何回かやるだけでもかなり力がつくはず。ポイントがまとまっていて、農学が専門でない方も始めやすいと思います。細かい知識は他の参考書で補いましょう。

ほかにも…農学通信講座 (LEC)、プロが教える農業のすべてがわかる本 (ナツメ社)、技術系よく出るシリーズ 農学・農業の頻出問題 (実務教育出版)、農学基礎セミナー (農山漁村文化協会) など

専門外から独学で受験する人も多くいます。容易な道ではありませんが、専門分野ではないことを理由に諦める必要は決してないようです。

1位 基礎能力試験過去問

出題傾向をつかむため、時間配分を調整するため、苦手な単元だけを複数年分解いて演習を積むためなど、目的や使い方は様々ながらほぼ全員が用いていました。

2位 新スーパー過去問ゼミ（実務教育出版）

同様の単元別問題集には上・中級公務員試験 新・光速マスター（実務教育出版）、公務員試験 過去問新クイックマスター（東京リーガルマインド）などがあります。内容に大きな差は感じられないという意見が多いので、分量や解説の配置、デザインなどで選びましょう。

3位 速攻の時事（実務教育出版）

わかりやすかったという人、特段わかりやすいわけではなかったという人、そもそも時事は何もしていなかったという人もいます。

ほかにも・・・畑中敦子の判断推理・数的推理 ザ・ベスト（KKベストセラーズ）、勝者の解き方 敗者の落とし穴（洋泉社）、高校の参考書など

出題傾向を受けて知識分野（歴史、化学など）よりも知能分野（数的処理、判断推理など）に重点を置いていた人が多かったです。上に挙げた参考書をはじめ、総合職の過去問に取り組んだ人や公務員講座を利用した人など、対策はそれぞれでした。

その他（官庁訪問等に使えるもの）

1位 各種パンフレット

（ 内定者の声、環境省自然環境局「人と自然の共生をめざして」
環境省レンジャーの仕事、環境省パンフレットなど ）

眺めているだけでモチベーションがアップするアイテムです。

ほかにも・・・現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本（実務教育出版）、図で見る環境白書（環境省）、レンジャーの先駆者たち-わが国の黎明期国立公園レンジャーの軌跡-（財団法人自然公園財団）、環境省メールマガジン、eco 検定〈公式テキスト〉（東京商工会議所）など

官庁訪問は一日がかりなので長い待ち時間に眺めようと何種類か持って行きました。控え室で隣り合った人とパンフレットを見ながら話したり、そこから新たな話題が派生したりして楽しい時間を過ごしました。

内定者 A の場合

プロフィール

- 【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】大学4年・女性・26歳
【参加した説明会・回数】各府省合同業務説明会、JOB トーク、日比谷公園お花見散歩&座談会
プレゼン王決定戦、1次試験後の合同説明会等・10回程度
【併願先】なし 【インターンシップ】あり（環境省、その他官公庁）
【試験区分】林学 【専攻科目】森林保全生態学

志望動機

鳥は、物心ついたころから私の最も気になる存在であり、最大の支えであり動機です。様々なシーンで懸命に生き抜く彼らの姿を幼少より関心をもって目にしてきたことで、いつしか人生の目標が決まっていました——一羽でも多くの鳥を守りたい。この目標の達成には鳥のみならず、その住まう環境ごとを守る必要があります。しかしそれは決してひとりでは為し得ません。レンジャーとは各地を転々としながらその地の素晴らしさを知らせ、課題があることを発信し、解決へ向けて動こうという「輪を広げて流れを作る」ことのできる職業だと考えています。人と人が手を携えて生み出される大きな力を以てすれば、自然環境を守ることができ、きっと目標を達成できる。そう感じたため志望しました。

勉強方法

勉強方法

彼を知り己を知れば……というように、まず試験区分や配点をしっかりと確認し、それから出来を気にせず過去問2、3年分を解いてみました。「このようなもの」という感覚をつかめていると計画を立てやすいのではないのでしょうか。相手がわかれば次は己を知る番です。私の場合、大学受験までを振り返ると重要なことほど前々から準備をしすぎてプレッシャーになってしまう傾向があったので、国家公務員試験こそそうしたことなく臨むために、思い切って準備期間を短くしました。基礎能力試験と専門試験のいずれについても対策を真剣に始めたのは試験2カ月前、4年生の4月です。

日単位、週単位で計画は立てましたが、気分が乗らない日は勉強をやめて存分にだらだらと過ごしました。そんな日に備えてあらかじめ計画に「予備日」を設けておいたことも功を奏した一因であったかもしれません。

基礎能力試験

時間配分の調整には模試が有効でした。試験の雰囲気を経験することも兼ねて一度は模試を受けてみるというのではないのでしょうか。短い準備期間で行えたことは多くありませんが、主に対策をした「英語・数的推理と判断推理・その他」について以下にまとめます。

- **英語**：好きな科目で取り組みやすかったので過去問の英語の部分だけを日々の勉強始めに解きました。1年分5問程度ですが重要なのは量ではなく毎日触れることだと思います。

- **数的推理と判断推理**：解法パターンがある程度決まっているため問題集を購入して演習をしました。先に要チェックの印がついているものから取り組み、出来や理解度によってさらに演習をするかどうかを決めれば効率よく進められると思います。過去問で力を試し、繰り返し復習をして、出題数が多いこの単元を味方にできれば心強いです。
- **その他**：通して数年分の過去問を解いた際に触れた程度です。知識分野は大学受験の頃の記憶を引っ張り出してその都度対応しました。1問出るかどうかという頻度のものについては「わかれば吉、もしも凶なら好きな数字の2をマークしよう」という具合に大きく考えていました。時間を浪費しないよう、割り切って進む勇気をもつことが大切です。

専門試験

可能な限り古くからの過去問を取り寄せて解き、問われた箇所について森林・林業白書と森林・林業実務必携で調べて読み、必要に応じて要点やグラフをノートにまとめました。はじめは1年分を復習するのに3日ほどかかっていたのですが、問われるポイントがつかめてくるとその時間はどんどん短くなっていきました。問題文や各選択肢の横にどの書籍の何ページで触られているかをメモしておく振り返りやすいと思います。

しかし何より、大学の講義で学んできたひとつひとつが礎となったように感じています。受験予定の試験区分が専攻と同じであるならば、日々を大切にすることが最も確かな対策かもしれません。

専門記述試験

記述であることを意識した対策はしませんでした。多岐選択式の勉強をする中で要点を整理し経緯や課題など内容をきちんと理解するよう心掛けていれば、特別不安に感じたり身構える必要はないと思います。

本番では問題文を落ち着いてよく読み、問われているポイントはもちろん、用いるべきキーワードや語群選択がある場合はその使用条件などに注意しながら解きましょう。時間が足りなかった印象はありませんでしたが推敲する十分な余裕があったわけではなかったので、箇条書きなどでだいたいの展開を組み立ててから書き始めるとよいと思います。

二次面接&官庁訪問

面接カードは記入欄が限られていたため、しっかりとした文章ではなく「面接官に質問してほしいこと、これだけは伝えたいこと」に関するキーワードを並べました。また下書きの添削や面接の練習には、厚生労働省が全国47都道府県に設けている「新卒応援ハローワーク」がとても有効であったと思います。利用は無料です。伺ったのは二度でしたが、第三者のチェックを受けたという事実、そして担当して下さった方からいただいたアドバイスやあたたかいエールが大きな安心材料となりました。

面接は試験というよりも、紙上の得点では伝えることのできない熱意を表現できる機会だと考えています。短時間で簡潔に、しかし確かに思いを伝えるため、私は二次面接前に自身のこれまでの歩みを思い返して整理しました。初心や発想の経緯、とった行動、出会った人、感じたこと、考えたこと…こうして書き出されたアウトラインは官庁訪問の日ま

で、目を通す度に勇気と自信を与えてくれる重要なアイテムとなりました。どの面接も飾らず落ち着いて、胸を張って臨めたと思います。

| アドバイス

な ぜ環境省なのか、なぜ一般職自然系なのか、国家公務員としてどんな社会にした
いのか、レンジャーとして何をしたいのか—— 自分に問いかけてみてください。
どうでしょう、自分の目標はどんなことで、レンジャーはその達成に最も相応し
い職業でしょうか。

確かめに行きましょう。近くへ、遠くへ、誰かに会いに、あるいはひたすらひとりで。
レンジャーをはじめ各職業について知るには、実際に現職の方にお話を伺うことが一番で
す。進むべき道を迷っている人はもちろん、まっすぐにレンジャーを目指す人こそ是非。
経験は意思を持って歩む人を支えてくれる糧となり、縁は自己を広げるきっかけとなるは
ずです。巡り会った人、出会った生き物、自分で見て聞いて嗅いで、肌で感じたことの全
てが「一度きりの人生を、何のために、どう使うか」を決める材料になると思います。あ
なたの目標達成のための手段がレンジャーになることであるならば、こんなに嬉しいこと
はありません。

内定者 B の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】大学4年・女性・22歳
【参加した説明会・回数】なし 【併願先】なし
【試験区分】林学 【専攻科目】生態学、畜産

志望動機

私は小さいころから自然が好きで、よく野外観察会へ母と参加していました。小学生のある日、いつも遊んでいた雑木林が立ち入り禁止となり、工事が始まりました。その時初めて自然が無くなる光景を目の当たりにし、その日から自然やそこに住む生き物を守ることでできる仕事に就きたいと強く思うようになりました。その日から自分がやりたいことのできる職業は何かを探し始め、環境省にたどり着きました。また、私は実際に現場に行き、現状を把握しながら働きたいという思いがあった為、一般職の方を志望しました。

勉強方法

勉強方法

私は民間の方の就職活動も行ってたこと、また自分の専門分野ではない試験区分を選択していたため、楽ではありませんでした。就職活動をどのように行っていくか、ご自分の考えをしっかりとまとめ、計画的に行うことをおすすめします。

基礎能力試験

私は林学の知識が全くなく専門試験に力を入れたいと考えていたので、基礎能力試験は配点の高い「数的処理」や苦手な「判断推理」を重点的に行うなど、分野ごとに優先順位をつけて勉強するようにしていました。不安もありましたが捨て科目などもつくり、やったところを確実に取れるようにすることを意識して勉強していました。

専門試験

林学は独学で勉強を行いました。過去問 5 年分ほどを解き、解答・解説書を自分でつくすることで、問題を解きながら知識を入れられるようにしました。解説書にはその問題に答える際に、外せないキーワードをいくつか書き、覚えやすいようにしていました。分からないことは、よく学校の図書館で調べていました。「森林・林業白書」をよく活用していましたが、全てを頭に入れるのは大変だったので、より変化のある年の出来事を注意深く読むようにしていました。

専門記述試験

専門試験に力を入れていたので、正直全く対策はしていませんでした。しかし、過去問の問題文を見て、「自分ならこう考えるな。」と頭の中で簡単に考えをまとめたりはしていました。また、環境に関するニュースは日々注目して見ていました。

二次面接&官庁訪問

面接は民間の方でかなり行っていたので、自信はありました。面接の内容は面接カードに沿って聞かれるので、よく読んでおくと思います。面接の対策としては、私は大学の就職支援室に行き、自分の考えを伝えられるよう練習を行いました。誰かに聞いてもらうことで、分かりにくい箇所や、内容が薄いところを知ることができるので、1人で考えるよりもずっと良いと思います。面接は誰もが緊張すると思います。しかし、無理に言葉をつくろうとせず、自分の考えをしっかりと伝えることが大切だと私は思います。

アドバイス

私 が内定を頂くことができたのは、「ここに就職したい！」という強い気持ちがあったからだと思います。もちろん、民間での就職活動の中で惹かれた企業は多くありました。しかし、一番自分がしたいことは何か。それができる職場はどこか。ぶれることのない一つの思い、考えが必要だと思います。それを知るために、一度自分自身をじっくりと見つめてみてください。その答えが出れば、きっとどれだけ大変なことであっても頑張れるはずです。皆様のご健闘をお祈り申し上げます。最後まで読んで頂き、ありがとうございました。

内定者 C の場合

プロフィール

【最終学歴】大学院修了見込み 【学年・性別・年齢】修士2年・男性・24歳

【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会、学校内説明会等・3回

【併願先】地方上級（林学職）

【試験区分】林学

【専攻科目】景観生態学

志望動機

幼いころから自然や生物が好きだった、ということもありますが、私が環境省を志望する一番のきっかけとなったのは生物の保全施策とそれに対する地域の方々との考え方の違いを感じたことでした。大学4年生時、北海道東部の釧路地方で研究を行っていた際に、地元の酪農家の方から、「タンチョウが家畜の飼料や牧草を荒らして困っている」というお話を伺いました。ご存知の通り、タンチョウは絶滅の危機に瀕しており、多くの保全事業が行われてきました。一方で、地域の方々の中にはタンチョウのことを快く思っていない方もいる、このギャップに大きな課題意識を持ちました。

この課題に対し、地域の方々の自然環境への理解を深め、地域一体となった自然環境の保全や利用を行うためには、実際に現場を見て、聞いて、感じたうえで多様な関係者の調整役となれるレンジャーが最も適していると思い、志望しました。

勉強方法

勉強方法

勉強をはじめる前に基礎能力試験、専門試験の出題数や範囲、配点などを確認し、どの分野で何割を目標にするかを大まかに決めてから勉強しました。例えば、「自分は数学が得意なので数的〇割、英語は少し苦手なので△割」など、自分の得意・不得意にあった形で決めてもいいかもしれません。満点を取る必要はないので、全体として何割を目標にするか、そのためにはどの分野で何割取ればよいのか、を常に頭に入れて各分野に対する時間配分を決めるなど、効率の良い勉強を心がけるとよいと思います。

基礎能力試験

過去問と数的処理の参考書を中心に勉強していました。知識分野は範囲のわりに出題数が少ないので、高校で選択していた科目のみしっかりと勉強し（センター試験レベルの参考書、用語集など）、その他の科目は一問一答を軽くやる程度でした。知能分野の中でも、特に数的処理に関しては初見では解くのに非常に時間がかかるので、過去問より先に参考書（畑中敦子シリーズ）で解法パターンを先に覚え、それから過去問を解く、という流れで行っていました。文章理解は様々な解き方（先に選択肢を確認する、本文を読んでから選択肢に目を通す、など）がありますが、情報を鵜呑みにせず、自分に合った解き方を見つけていくことが得点upの近道かなと思います。

専門試験

専門試験は主に過去問を1問ずつノートに貼り付け、森林・林業白書、森林・林業実務必携、インターネットなどで調べながら全選択肢の解答を作成する、という形で勉強をしていました。このとき、間違っている選択肢についても間違っている内容と正解を調べておくと後々の勉強が楽になります。ある程度解答を作成し終わったら（私の場合は総合職・一般職各2年分）各分野の用語、林業政策の流れなどをまとめたノートを作りました。このとき、図や写真を用いて分かりやすく作ることを心がけました。林学区分にはスー過去のような公務員試験向けの参考書が存在しない（書店で愕然としました）ので、問題を解きながら自分なりの参考書を作っていく気持ちで取り組みればよいと思います。

専門記述試験

専門記述試験はこれといって特別な対策はしていませんでした。過去問数年分は目を通しましたが、専門試験の内容が理解できていれば問題なく記述できると思います。ただ、林業政策の流れや林業の現在の課題については押さえておく必要があると思います。

二次面接&官庁訪問

二次試験の対策は、大学のキャリアセンターの方にお手伝い頂き、面接カードの添削をして頂きました。本番の面接は面接カードに沿って進むので、面接カードに書いた内容は自分の言葉でしっかりと説明できるようにしておく必要があります。私は面接練習は行いませんでしたが、もし時間があれば模擬面接や民間の面接などで練習しておくことをおすすめします。自分で話す内容を考えていても、（特に緊張した場面では）とっさに言葉に詰まることがあったので、面接の雰囲気になれることは大事かと思いました。

アドバイス

レンジャーについてもっと詳しく知りたい、レンジャーとほかの職種で悩んでいる、という場合には、是非直接レンジャーの方にお話を伺ってください。実際に現場で働いている方の生の声を聞くことで、自分のやりたいこととレンジャーの仕事の違いを明確にしたり、「レンジャーとして働きたい！」という気持ちを再確認できたりすると思います。勉強や就活が大変な時でも、自分の仕事について楽しそうに話すレンジャーの方を思い出すことで、「自分も同じ職場で働きたい」というモチベーションにつながると思います。

また、公務員試験は一次試験から官庁訪問まで考えるとかなりの長丁場になります。そのため、時には息抜きで自分の時間を作るなど、メリハリをつけて勉強することが非常に大事だと思います（私は試験のご褒美として旅行に行ったりしていました笑）。自分のペースで、自分に合ったスタイルで勉強を進めていけば、おのずと結果はついてくると思います。みなさんと一緒に働ける日を楽しみにしています。頑張ってください！

内定者 D の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】大学4年・女性・21歳
【参加した説明会・回数】公務研究セミナー、女性のための公務研究セミナー、
【参加した説明会・回数】合同業務説明会、1次試験後の官庁合同説明会・4回
【インターンシップ】あり（環境省・5日間）
【併願先】なし
【試験区分】林学 【専攻科目】森林植生学

志望動機

幼いころから親に連れられ、よく登山に行っており、自然の中で遊ぶのがとても好きでした。高山植物や満天の星を見て、自然の美しさに感動し、自然保護や環境問題に興味を持つようになりました。小学生の時、自然環境に関わる職業を探す中で、環境省のレンジャーという仕事を知り、あこがれを抱くようになりました。

大学3回生の時のインターンシップでは、国立公園の利用と保全について考えました。そのことがきっかけで、利用と保全をどのように進めるかについて現場の立場から考え、その上で施策づくりに関わりたいと思うようになりました。そのインターンシップでの経験や、レンジャーの方々にお会いし業務の話を伺ったことで、環境省の職員になりたいという気持ちをより強くしました。各地の国立公園で実際に働き、利用しつつも素晴らしい自然を後世に残すことができるよう、試行錯誤しながら仕事に取り組みたいです。

勉強方法

勉強方法

一か月、一週間、一日単位で計画を立て、自分が目標とする点数がとれるように問題集や過去問を解いて勉強しました。

基礎能力試験

主に、知能分野の数的処理と判断推理に力を入れて取り組みました。3回生の春頃から、数的処理の問題集を解き始めました。解く時間を計りながら、大体3回通り解くようにし、できなかった問題は完全にできるようになるまで何回も解きました。文章理解は、問題集を一通り解いたのと、過去問で少しふれたくらいです。

知識分野の自然科学は、高校時代に選択していた教科を中心に、問題集を解いて勉強しました。人文科学と社会科学は、問題集で頻出度がAとBになっている単元だけ暗記するようにしました。時事は新聞を毎日読むのと、ラジオを聞くことで対策をしました。冬頃に「速攻の時事」という本が出るので、それも一通り読みました。分野別に分かりやすくまとめられているので、おすすめです。

また、独学で勉強したのですが、自分がどのくらいのレベルなのかを知るために3回生の5月と3月、4回生の5月の計3回、模試を受けました。

特に直前期は苦手な問題と暗記科目を詰めるようにしたのと、過去問 5 年分くらいを、時間をはかって解きました。

専門試験

「森林・林業白書」と、「森林・林業実務必携」を使って学習を進めました。過去問は 10 年分を大体 5 回通して解きました。一問ずつ、選択肢についてどこが間違っているのか、どこが正解なのかをノートにまとめ、暗記するようにしました。時間はかかりましたが、力になったと思います。林業機械や集材方法についてはなかなか覚えられなかったので、YouTube で実際に集材しているところや機械が動いているところを見て覚えるようにしました。また、過去問だけでは不安だったので、「森林・林業実務必携」の章ごとの内容をノートにまとめもしました。時間は莫大にかかりましたが、自分にとっては知識の定着につながり、良かったと思います。

専門記述試験

過去問を 5 年分解きました。専門多岐試験の対策が生きてきたと思います。知識より自分の考えを問う問題が多かったので、「森林・林業白書」の内容を理解して、自分なりに日頃から白書で取り上げられているトピックや課題について考えをまとめておけば良いと思います。

二次面接&官庁訪問

大学のキャリアサポートセンターやハローワークに行って模擬面接の練習をしました。練習を何回もすることで、自分の思いや考えを相手に分かるように伝えられるようになっていったので、練習はある程度大事だと感じました。

二次面接は面接カードの内容に沿って聞かれました。そのため、面接カードは時間をかけて作った方がいいと思います。面接官に突っ込んで聞いてほしい箇所をつくって書くと、自分が話しやすいと感じました。

二次試験の合格発表が官庁訪問一日目と同じ日だったので、不安感と緊張感でいっぱいでした。合格発表が 9 時で官庁訪問の受付開始時間が 10 時だったのですが、8 時 30 分くらいから庁舎に行って並びました。私の前にはすでに 10 人くらいいたので、早めに行くの良いと思います。官庁訪問では 3 回面接があり、面接カードに書いていないことも聞かれたり、鋭い質問もされたりしました。自分の考えを伝えられるように努力はしましたが、とても緊張していたのもあり、自分の思っていることを思うように話すことができず、泣きそうになった面接もあります。

アドバイス

公

務員試験は長く険しい道のりで、心が折れそうになったこともあります。その度に自分が本当にやりたいことは何かを自分自身に問いかたり、環境省の HP やパンフレットを見たり、内定者の声を読んだりして、自分を奮い立たせました。また、インターンシップに行ったり、自然保護官事務所や地方環境事務所に訪問して職員の方からお話を伺ったりした経験によって、自分が環境省で働きたいという思いが強

くなりました。今でも自分が内定をいただけたことが実感できていませんが、来年から精一杯頑張ろうと強く誓っています。官庁訪問はこれでもかというくらい緊張しましたが、多くのレンジャーの方々とお話できる貴重な機会だと思えるようになりました。自分が緊張している状態も楽しめるようになるといいのかなと思います。公務員の勉強でしんどい時、相談したり愚痴を言ったりできる相手の存在はとても大きかったので、是非大事にしてほしいです。適度に息抜きをしつつ、悔いのないよう、頑張ってください！

内定者 E の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】大学4年・男性・24歳
【参加した説明会・回数】1次試験後の合同説明会、霞ヶ関 open ゼミ等・3回
【併願先】国家公務員総合職 【インターンシップ】あり（環境省）
【試験区分】林学 【専攻科目】海洋生態学

志望動機

白 然と人の暮らし、その双方の豊かさを維持できる世界」。その理想を追及するため、またその実現に自分のエネルギーを注ぎたいと考え、環境省自然系職員を志望しました。私は大学で海洋系の研究室に所属しています。調査には多くの回数行きましたが、その中で漁業者の方々とお話をする機会を多く持つことができました。「なぜか魚が獲れなくなってしまった。これからどうやって生活していこうか」「今年は魚が多く獲れたから生活が安泰だ」このようなお話を漁業者の方々から何度も聞きました。実際に調査していても、生物が多く生息し自然が豊かな海域では漁業者の方々の暮らしは豊かですが、なんらかの原因で自然が貧しい海域での漁業者の方々の暮らしは豊かとは言えませんでした。そこで実感したのは自然の豊かさと、人の暮らしの豊かさは繋がっているということです。そこで、国立公園を中心とする、我が国の代表的な自然が広がる地域で、自然と人の暮らしとのより良い関係を模索し、双方の豊かさを維持できる仕組みを考え、構築し、全国に広げていきたいと思いました。これが、私が環境省自然系職員を志望した理由です。

勉強方法

勉強方法

試験までの残りの時間を考慮して、時期に応じて勉強の方法を変えていくようにしました。具体的には試験の二ヶ月前までは全体的な勉強を、それ以降はポイントを絞った勉強を行いました。

基礎能力試験

試験の二ヶ月前までは自分の苦手な分野を克服することに時間を当てました。試験直前期にはどの分野で点数をとるかという計画を立て、点数をとりたい分野の勉強に時間をあてました。

専門試験

過去の試験問題を五年分、一問ずつルーズリーフに切り貼りし、その裏に解答を書き込みました。ルーズリーフを用いることで問題の順序を変えることができたり、分野ごとにまとめ直すことができたりと非常に便利でした。

専門記述試験

最初に森林・林業白書を読んで、全体の関連事項の流れを把握しました。その上で出題されそうな事柄に対しての自分なりの考えや、適切な政策を一問一答形式で整理しました。

二次面接&官庁訪問

1つだけ心がけたことがあります。それは自然体でいるということです。面接や官庁訪問は、受験する方々にとっては受験先の雰囲気を体験する機会、面接官の方々にとっては組織の雰囲気に合う受験者を採用する機会であると捉えていました。ゆえに、自然体の自分から離れて面接に臨むと、自分に合わない組織に採用されてしまう可能性があります。面接では、自分自身を採用される側だというふうにネガティブに捉えるのではなく、自分自身も自分に合う組織を探している側だというふうにポジティブに捉えて、自然体でいることが大切だと思います。

| アドバイス

どの職業を志望するときにも言えることですが、何が自分に合っていて、何を良しとするかということは頭で考えてもよく分からないことが多いと思います。そこで私がお勧めするのは、実際に体験してみることです。インターンシップや実際に働いている人にお話を聞きに行くこと、そのようなことを経験すれば納得して志望先を決めることができます。さらに、面接などで自分の思いを上手く言葉にできずとも、経験から語ることのできる言葉はキラリと光を放つのではないかと思います。

| おわりに

最後まで読んでいただいて、ありがとうございます。この冊子には今年度の内定者の正直な思いや、就職活動の過程で感じたことを詰め込みました。五人五色、まさに多様性のある様子をおわかりいただけたのではないのでしょうか。誰のどの方法が正しいということはありません。そして皆さんにとってここに書いてあることは必ずしも十分ではないかもしれません。この冊子を読んでみて疑問に感じたことや、さらに深く聞いてみたいことなどがありましたら、ぜひセミナーや説明会にも足を運んでみてください。

「知ることは感じることの半分も重要ではない」と言ったのは「沈黙の春」で有名なレイチェル・カーソンです。皆さんが環境省レンジャーを志望する際に、この冊子から何かを「知る」だけでなく、環境省レンジャーに実際に会って何かを「感じる」ことのきっかけとなれば幸いです。皆さんにお会いできる日を心待ちにしております！

平成 28 年 11 月

平成 29 年度環境省入省予定 一般職自然系職員内定者一同

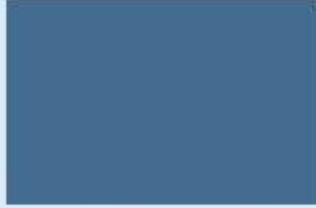
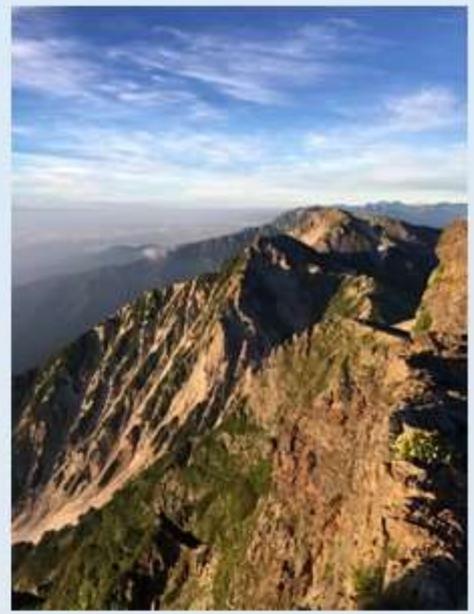
※環境省について

環境省の職員には総合職と一般職があり、それぞれ事務系、自然系、理工系にわかれています。この冊子は平成 29 年度環境省一般職自然系区分の内定者で作成しています。

詳しい業務内容等に関しては下記 HP を参照、または記載の連絡先よりお問い合わせください。

○環境省 HP <http://www.env.go.jp/>

○環境省_採用・キャリア形成支援情報 HP <http://www.env.go.jp/guide/saiyo/index.html>



平成29年度 環境省入省予定
一般職自然系職員内定者一同

